

大学教員

一生、一年、一日。

山口順子（日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野 助教）

仕事の内容とやりがい

どの医師にとっても当たり前ですが、「救命する」という目標に集中できます。救命センターで、患者さんの人生の集大成に触れさせていただき、その儚さを痛いほど味わいます。だからこそ最善を尽くして救命することがシンプルで明確な目標となりました。自分も素敵な人生を過ごしたいと強く感じることがができます。

進路決定のきっかけ

小さいときから星や宇宙の本を読み漁ったり、数式を解き続けたり、音楽演奏にはまったり。その時々やりたいと思うことに没頭していて進路を考えていませんでした。進路をしっかりとめたのは、高校2年の終わりでした。隣にある大学病院を見て医師ならば仕事にも没頭できて、社会貢献していると実感しながら過ごせるのではないかと思い決めました。

仕事と家庭／生活のバランス

仕事とプライベートのバランスをとるのが大変不得意です。いつも好きなことに没頭しているためバランスをとろうという考えもないタイプでした。しかしながら、最近は普通の仕事の環境から完全に離れる時間を過ごすことで、新しい仕事の発想が生まれ、わくわくした気持ちになることが増えました。散歩や家族との医療以外のたわいもない会話、時々ピアノを弾くことが充電になります。

進路選択に対してのメッセージ

これまでほとんど計画なき人生でしたが、いつもその時々心が動くことをやるために選択し、またそれができる環境やいろいろな縁があり、今も幸い続いていることを感じます。一生、一年、一日のつながりを感じながら過ごしています。理屈じゃない心の動きで選択してみてもいいのではないかと思います。あとから振り返りそれが理屈になっていたりします（笑）。

◆プロフィール

帝京高校→日本大学医学部→日本大学医学部救急医学系入局→国立病院機構災害医療センター救急科レジデント→公立阿伎留医療センター救急科 科長→日本大学医学部救急医学系救急集中治療医学分野助教



プロであれ!

岩本真帆 (日本大学医学部消化器肝臓内科 助教)

仕事の内容とやりがい

専門は消化管で、主に、胃、小腸、大腸の内視鏡検査・カプセル内視鏡検査などを行っています。臨床医として患者さんの治療を行うだけではなく、学会発表や論文作成を通して、疾患の経過や治療成果の記録を正確に残していくことも大事な仕事です。難治例などは、他施設のexpertと研究会等でdiscussionを重ねる必要があります。文献検索だけでなく、他施設の先生方から意見を頂く事は大変勉強になる為、メールだけでなく、学会や研究会に参加した際には、直接お話を伺うようにしております。

進路決定のきっかけ

高3の時に、医大に進まれた先輩から話を聞く機会があり、医学部に進学することになりました。大学卒業後、都立府中病院で、2年間、総合臨床研修を行いました。画像検査が好きで、3年目からは、消化器内科を専攻する事に決めました。当初は入局先を悩み、数か所他施設見学にも行きましたが、恩師の勧めもあり、母校である日大板橋病院の消化器肝臓内科に入局致しました。良き仲間、良き上司との出会いがあり、臨床医として多くの事を学び、勉強しながら、仕事をさせていただいております。

仕事と家庭/生活のバランス

どの職場でも、誰でも、妊娠出産子育て・介護・自身の怪我や病気などいつかは必ず、やむを得ず休職したり、仕事量を減らしたりしなければならぬ時があります。大切なのは休んだ時に代わってくれた仲間に感謝する気持ちと、逆の立場になった時に、大変でも一踏ん張りできる器の大きさではないかと思えます。法的制度の下、実際の職場では、休職者の仕事を埋められるようなマネジメント体制も必須です。私自身は、家族の理解、職場の理解があり共働きを続ける事ができました。

進路選択に対してのメッセージ

高校生、大学生になると、自分自身の性格、嗜好、憧れなどがはっきりわかるようになってと思います。進路は、周囲を喜ばせるためではなく、自分自身が生き抜く方法として、心に問いかけて、選んで下さい。選んだ進路も順調に進むとは限りませんが、今は様々なサポート体制が作られています。それぞれの状況にあわせて臨機応変に対応できるようになっておりますので、困った時には、まず周囲のスタッフに気軽に相談してください。

◆プロフィール

茨城県結城市出身。1998年3月に日本大学を卒業後、都立府中病院にて研修の後、日本大学医学部附属板橋病院 消化器肝臓内科勤務。春日部市立病院、板橋医師会病院への出張勤務、学位取得、兼任講師を経て、2016年4月より同病院助教。消化器病学会専門医、消化器内視鏡学会指導医。



大学教員

感謝とともに

中西陽子（日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野 助教）

仕事の内容とやりがい

私は医師ではなくPhDですが、現在、助教として教育、研究に携われることに大変感謝しています。附属病院があり臨床各科も連携の強い本学で、研究職としてであっても医学の発展を目の当たりにでき、また自身も貢献できればという思いは、育児と両立して行う地道な実験作業や論文作成の苦労もやりがいという言葉に置き換わります。基礎と臨床がより密接になってきている現在、臨床的な内容や最新情報についても常に勉強し続けなくてはなりません、それもまた大きなやりがいだと思います。

進路決定のきっかけ

数学が好きで高校時代、理系クラスにいましたが、どちらかという部活のテニスに励んでいました。が、そんな部活仲間から「あなたはずっと研究したいと言ってたから、夢が叶って良かったね。」と最近言われたことを思い出しました。確かに当時新しかった遺伝子工学に憧れて志望した大学に入りました。その後順調にというわけではなく、博士号も30代と40代で取得しました。ただ研究によって新事実を知りたいと思い続けて頑張っていたら、たくさんの出会いに恵まれたとやはり感謝しています。

仕事と家庭／生活のバランス

大学卒業後、親の希望もあり分野の異なる企業に就職した先で夫に出会いました。その後、夫が赴任したつくば市で、私は今につながる研究職の第一歩を踏み出すこととなりました。本学に採用された後に息子を出産しましたが、まだ小学生ですので全く余裕はありません。平日の夜や日曜祝日の勉強会や学会への参加も多いです。夫の母親の介護も重なるため、遠方の実家に頼ることもあります。それでも明るい子供や夫、家族や職場、周りで応援してくれる方々にいつも感謝して仕事も家庭も全力投球です。

進路選択に対してのメッセージ

多くの方が言われるように、人生は一度きり、制限を設けず、やり直しもあり、好きな事を見つけて、やる、それが全てなのかもしれません。でも、やりたいことしかやらないのも実は自分で制限を設けているように感じます。つまらなく感じることも全てはいずれつながっていくような気がします。感謝の気持ちを忘れず、どんなことにも全力投球、そうすれば平坦でなくても次の道が現れてくれると思っています。

◆プロフィール

大阪府立大手前高校 → 京都工芸繊維大学繊維学部応用生物学科 → 企業に就職 → 結婚 → 筑波大学社会医学系地域医療学教室 → 茨城県立医療大学医学科学センター → 日本大学医学部病理学教室 → 博士（情報学、図書館情報学） → 日本大学医学部病理学分野助手 → 出産 → 博士（医学、日本大学） → 日本大学医学部病態病理学系腫瘍病理学分野現職



日々その日にできるベストを尽くしてください。

西尾晴子（つまき皮膚科（院長））

仕事の内容とやりがい

おおむね皆さんがイメージする医者 of イメージ通りだと思えます。日々医院で患者さんを診察し、時には往診にでかけます。TVドラマのような劇的な出来事はありませんが、小さな（時に大きな）喜びと苦しみのたくさんある毎日です。“皮膚は内臓の鏡”と言われるように皮膚科は幅広く奥の深い学問です。専門的な知識は何よりの基本ですが、町医者では専門外の相談を受けることも多いので、他科の知識を勉強しておくことも大切です。また大病院と異なり最先端の治療を望まない方も多く、その人にとって何が最良の治療なのかを考えることも多くあります。どのような方法であっても真剣に診療した結果、患者さんの状態が好転し、「お陰様で…」と言ってもらえた時が何よりも嬉しい瞬間です。

進路決定のきっかけ

両親を始め、親戚に医師が多かったことから私にとって医師は非常に身近な職業でした。時にキレイ事では済まされない医療現場の現実を垣間見ることもありましたが、生き生きと働く両親（特に母）の姿がいつも目の前にありました。男女雇用機会均等法が制定されたもののまだまだ女性の社会的立場が弱かった時代、医者なら一人の人間として努力すれば評価してもらえるはず！と思い込んで医学部をめざしました。

仕事と家庭／生活のバランス

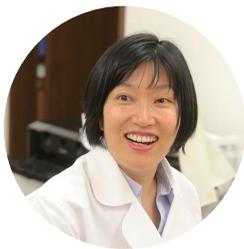
これは私にとって永遠のテーマです。長男を出産してから15年以上経ちますが、この間ずっと「もう少し子供が大きくなったら思い切り仕事ができる」と思い続けているように思います。子供が小さい時はお風呂や着替えなどに手がかかります。成長とともにこれらは解消してゆきますが、今度は学業や心の悩みを抱えてくるので今はまだまだ手が離せません。今後は親の介護という問題がでてくるでしょう。一方で私自身が子どもや家族と多くの時間を過ごしたい思いが強く、気持ちの面でもバランスを取るのには苦労しています。ただ、仕事も家庭も常にハードな状況が続いているわけではないので、その時の状況に応じて仕事>家庭、仕事<家庭、仕事=家庭のウエイトで過ごしていきます。そういう意味では規則的な生活は送れませんが、これもまた楽し、です。

進路選択に対してのメッセージ

私は始めから今の仕事を目標にしていたわけではありません。卒業時は内科勤務医を目指していましたが結果的には皮膚科開業医になりました。女性は20歳代～40歳代までに結婚、出産、育児の可能性があり、そのすべての可能性を考えて人生計画を立てるのは不可能です。先のことを考えすぎず、今自分が一番やりたいことを選んで真剣に取り組んでください。特に若くて身軽な時期には時間と労力を惜みず、さまざまなことを学んでください。人生のどこかで方向転換を余儀なくされても それまでに培ってきたことがきっとあなたを助けてくれると思います。

◆プロフィール

恵泉女子学園高校→日本大学医学部→済生会中央病院内科研修医→日本大学医学部第一内科学教室→日本大学医学部皮膚科学教室→2度の出産後に皮膚科専門医取得→皮膚科医院開業



大学教員

あなたの夢を諦めないで！

吉武真里（日本大学医学部皮膚科学系皮膚科学分野 研究員）

仕事の内容とやりがい

現在は非常勤医師として、日本大学病院皮膚科で外来診療をしています。大学病院での仕事は、診療科を超えて多彩な疾患を診られること、チーム医療のためより高度な診療を行えること、後進の教育・指導を通して医学の発展に貢献出来ることなど、大変やりがいを感じています。現在は非常勤ですが、今後少しずつ仕事を増やし、機会があれば研究にも携わりたいと思っています。皮膚科は病変部が目に見えるため、治癒した時の喜びを患者さんと共有できることも、とてもやりがいがあります。

進路決定のきっかけ

幼い頃より、人の為に役立てる職業につきたいと思っていました。私の父が医師で、真摯に医療と向き合う父の姿を身近で見て、私も医師を志したいと思うようになりました。皮膚科は診断の際、視診、触診が重要な役割を果たします。身一つで、ある程度の診断が出来ることに大変魅力を感じました。また、対象となる患者さんは老若男女幅広く、女性のきめ細やかさが必要とされる診療科だと感じ、皮膚科を選択しました。実際に皮膚科学に携わり、その学問の奥深さに今なお魅了されています。

仕事と家庭／生活のバランス

夫は外科系臨床医として、大学病院や関連病院で勤務しています。そのため、出産後は子育てのほぼ全てを私一人で担う状況になり、大学病院での勤務も非常勤となりました。娘二人が小4、小2となった現在もその状況は殆ど変わっていません。そのような中で私が大切にしていることは、「どんな形でも大学病院での仕事を続けること」、「仕事と子供で迷った時は子供のことを優先すること」です。今はまだ子育てに追われる家庭中心の生活ですが、今後は少しずつ仕事の割合を増やしていきたいと思っています。

進路選択に対してのメッセージ

特に女性の場合は、働き盛りの時期に思うように仕事が出来ず、自分のやりたい仕事を続けるかどうか選択を迫られる場面に多く遭遇します。しかし、長い目で見た時に、仕事から距離が出来た期間は決してマイナスではなく、そこで得た経験はむしろ仕事にとってもプラスになるのでは？と、最近では思うようになりました。少し立ち止まることがあっても、いつか復帰することを目標にして、自分自身の夢を諦めず、やりたい仕事を細々とでも続けていくことが大切なのではないかと思います。

◆プロフィール

福島県立安積女子高等学校→日本大学医学部医学科→日本大学医学部附属板橋病院皮膚科→川口市立医療センター皮膚科（結婚）→市立岡谷病院 皮膚科（夫の意向に伴い）→日本大学医学部附属板橋病院皮膚科→夫の留学に伴いドイツ渡航→ドイツ・ミンデン市立病院皮膚科（第1子出産）→日本大学医学部附属板橋病院皮膚科（第2子出産）→日本大学病院皮膚科（現職）



大学教員

夢をもって、新しい道を切り拓こう！

野呂知加子（日本大学生産工学部応用分子化学科 教授（医学部細胞再生移植医学兼担当））

仕事の内容とやりがい

大学院卒業後、任期制研究職を歴任。比較的自律的に研究できる環境に恵まれ、それぞれの職が楽しかったですが、任期終わり頃の次の職探しはなかなか大変でした。最終的に理化学研究所の定年制研究職に。院生を預かって研究指導するうちに、大学教育に興味を持ち、今は大学教員として、研究と教育に携わっています。「一般の人や子供たちにわかりやすく生物学の楽しさを教えること」や「次世代女性研究者が生きやすくなるような環境作り」についても活動。忙しいが充実した日々を送っています。

進路決定のきっかけ

中高一貫女子高で出会った若い女性の生物の先生の影響で、いのちというものに興味を持ち、理学部生物学科を選びました。中高の先生の影響はとても大きいです。次の転機は大学院進学で、ここで素晴らしい研究（細胞接着分子カドヘリン）に出会って、研究者・学者として生きようと思いました。私は、人の言うとおりの毎日ルーティンワークをするよりは、自分の意志で自分の行動を決め、他人と違う新しいことをしたい性格なので、研究に向いているかもしれないと思います。

仕事と家庭／生活のバランス

夫は大学の同級生で、一緒に大学院受験して京都に行き、そこで学生結婚しました。博士課程の途中で長女が、最初の任期制研究員時代に長男が産まれました。私は中学からオーケストラでバイオリンを弾いており、今も市民オーケでビオラを弾いています。夫も子供も音楽が趣味でピアノやチェロ、フルートを演奏しますので、いつも音楽が生活の中にあります。子育て中は本当に毎日大変でしたが、そのピークはそれほど長い間ではありません。仕事と家庭のバランスはライフサイクルでいろいろ変化します。

進路選択に対してのメッセージ

人間は好きなことをやりながら生活できるのが一番です。小さい時から好きなことが決まっていた娘は、獣医学部を経て今はポスドクとして働いています。息子の方は、好きなこと探しに時間がかかりましたが、今は音楽サロンの社長をしています。人はそれぞれ、これだ！という進路や職業および人に出会うタイミングが違うと思いますので、いつもアンテナを張って、いろんなことに挑戦してみてください。また、遊びたい！という気持ちや趣味も、働くための原動力になるように思います。Never Give Up!

◆プロフィール

女子中学・高校 → 千葉大理学部生物学科 → 京都大大学院理学研究科生物物理学専攻博士課程<結婚・第一子出産>修了（理学博士）→ 国立精神・神経センター流動研究員<第二子出産> → JST・ERATO古沢発生遺伝子プロジェクト研究員・グループリーダー → 英国ケンブリッジ大学シニアリサーチアソシエイト → JSTさきがけ研究21「細胞と情報」領域研究員 → 理化学研究所脳総合・バイオリソースセンター → 現職



日大リケジョを応援します！

清水明美（日本大学生産工学部 教養・基礎科学系 教授）

仕事の内容とやりがい

大学1年生を中心に、いわゆる一般教養の科目として「文学」「日本語表現法」などを教えています。自分が文系出身なので、理工系の学生を相手に授業を作り上げていく苦労がありました。まず、科目に興味を持ってもらうこと、なぜ文系科目を学ぶ必要があるのか理解してもらうこと、そして学んだ後で何が違うのか実感してもらうことなど、文系を専門科目とする学生とは前提が違っていたからです。今も試行錯誤はしていますが、学生から「今まで考えたこともなかった問題だった」とかという感想をもらうと、自分の感じている面白さが学生に伝わったという充実感があります。授業の外で学生と話をするのも好きです。

進路決定のきっかけ

高校まで国語にしか興味がなかったので、大学選びは国文学科しか選択肢はありませんでした。日本文学を勉強しても、職業に結びつく可能性は低いことはわかっていましたが、好きで得意なことしかやりたくないという気持ちが強かったのです。教員採用試験を受けるつもりでしたが、卒業論文をすすめるうちに、もう少し続けたいという気持ちのほうが強くなり、大学院に進学しました。大学院の博士後期課程に進学すると職業選択の余地がなくなります。「私はこれがやりたい」という気持ちと、将来への不安がせめぎあいました。助手・非常勤講師の時代も「職業を選んだ」という気持ちはなく、好きなことを続ける方法がないかと模索していたという感覚です。

仕事と家庭／生活のバランス

助手の任期が終わった後、1年ほど地方で専業主婦をしていました。夫は、大学院の先輩で、当時は万葉集の研究施設におりました。私には本当に仕事が多かった時代です。研究をする時間はあったはずですが、この時は研究成果が出ず、なんとなく家庭のことで一日が終わっていました。その後、夫は退職。二人で非常勤講師として生活することになりました。同じくらい収入でしたが、専業主婦時代があるので、しばらくの間、私の家事負担が多かったと思います。その後、大学に採用されると私のほうが忙しくなってしまう、家庭のことが意識から抜けがちになっていきます。今は夫が家庭を支えているといえます。

進路選択に対してのメッセージ

大学・大学院時代に感じていた不安は、結婚や出産によってキャリアが途切れた場合、どうやって生きていけるのかというものでした。実際に途切れて、またつなぎ直すことも必要でしたし、家族ができれば自分の判断だけで生きていけるものでもありません。その場の状況に応じて優先順位をつけながらバランスをとっていくので、当初の目標から違った形に着地することもあります。そういうことを将来像の中に織り込んでおいてよいのではないかと思います。好きなことと職業が一致している場合、途切れたキャリアは繋ぎ直すことができるのです。

◆プロフィール

日本大学豊山女子高校から日本大学文理学部国文学科、日本大学大学院国文学専攻博士前期課程修了・博士後期課程満期退学、助手の任期終了時結婚、専業主婦の後、日本大学の様々な学部で非常勤講師を経験。1998年に生産工学部に専任講師として採用。現職。



大学教員

前向きにコツコツと取り組めば、必ず道は開けます。

亀井靖子（日本大学生産工学部建築工学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

大学の仕事には大きく分けて4つあります。1. 授業を行うこと（教育）、2. 研究を行うこと、3. 大学を運営すること、4. 社会貢献をすること。そのどれもがやりがいがあり、面白い仕事です。教育では、大学生に建築の面白さと大切さを伝えることを第一に授業を行っています。建築の基礎や社会ルールを身につけてもらうことも教育の一環です。研究では、住宅の維持保存について調査をしています。一つの建物を大切に長く使ってもらうためには何かを考え、長く使える住宅のプラン、維持管理（掃除など）を上手に行うコツ、地域ぐるみで街並みを作り上げていく秘訣などについて明らかにしたいと思っています。大学運営では、設計審査会やオープンキャンパスの企画・運営、入試の試験監督等を行っています。社会貢献では、「ドコモジャパン」という近代建築の維持保存・記録を行う世界的NGOの日本支部事務局長をしています。誇りを持って日本のいい建物を世界に紹介しています。

進路決定のきっかけ

中学時代、お母様が建築家の友達がいる、そのお母様に憧れたことが建築との出会いでした。でも、それ以前から図面には憧れがありました。エンジニアの父が家で図面を描いていたのを見ていたからです。「建築も図面を描くよね!」という理由で建築にした気がします。大学教員になったのは本当に偶然です。自分言うのもなんですが、幸運の持ち主だと思います。大学から大学院に進み、卒業後の進路について考える前に助手のお話をいただきました。これ以上の職業はないだろうと、二つ返事で話を進めていただいたことを覚えています。面白いことに、教育については自宅で先生をしている母の影響を受けています。母は、私が幼稚園に入った時から、書道教室と茶道教室を開いていました。

仕事と家庭／生活のバランス

幸せなことに両親とも健康なので、仕事と家庭のバランスは今のところ考える必要がありません。将来、結婚して子供を産んだら大変だろうな…と思いますが、今は仕事メインですね。プライベートな時間は取りたいと思っていますので、土・日はしっかり自分の時間に当てています。今は女性が仕事を持つことが当たり前になっていますが、主婦一筋という生き方も尊敬します。仕事と家庭すべてが中途半端で文句ばかりの女性がありますが、それなら子どもを沢山産んで、主婦として人生を謳歌するのが一番!と思います。子どもが産めるのは、健康な“女性の特権”なのです!

進路選択に対してのメッセージ

やりたいことが見つかっている人はそれに向かって邁進するのみですね。でも何をしていたのか分からない人は、とりあえず、自分の好きなことや、やっていて楽しいことを続けましょう。大学進学をするなら、それなりの覚悟を持ってすること。最近は何となく大学に来てしまって、無駄な時間を過ごしている自分に悩んでいる学生をちらほら見かけます。決断したら自分を信じて迷わず進むこと。目の前のことを一つ一つ生懸命こなしていくことで開ける未来もあります。

◆プロフィール

日本大学生産工学部建築工学科 → 日本大学生産工学研究科建築工学専攻 → 博士（工学）取得 → 現職。



できることではなく、あなたの道を見つけよう！

大江秋津（日本大学生産工学部マネジメント工学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

米国系の経営コンサルティング企業で、IT系経営コンサルタントとして働いていました。現在は、組織があたかも人間のように学習するという組織学習理論を軸に、多くの企業データを集めて統計分析を用いた研究をしています。学生といっしょに研究をすることは研究成果だけのことでなく、学生の成長と人生のステップアップのサポートとなり、一人で研究するよりもずっと楽しいと感じています。偏見のない学生の視点や意見を通じて、私も成長できるのも魅力です。

進路決定のきっかけ

高校の進路決定の時に、色々なことを全部しようと決めました。予定通り、大学では、考古学を勉強し、就職してからはIT系経営コンサルタント、その後は研究者の道を歩んでいます。高校の先生は、強く反対する先生もいる反面、「面白い、やってごらん」と言う先生もいました。やめなければ失敗にはならないと考えて、〇十年です。多くの出会いと選択の中で、折々で人生の岐路がありました。遠回りだったかもしれませんが、とても楽しい道のりでした。すべての経験が現在の研究に集約されつつありますが、まだまだ、ゴールは遠いです。

仕事と家庭／生活のバランス

分野は違いますが、夫も民間企業から大学教員となり、仕事についてよく理解しています。経営コンサルタントは勤務時間が長く、子供が生まれたら近所の大学で学位をとるつもりでした。子供が1歳の時に大学院を受験しました。もちろん、勉強や研究は大変ですが、自分の時間を完全にコントロールできるので、子供とたくさんの時間を過ごせました。5年後の学位取得の頃には子供も大きくなり、無事に就職もできました。子供のおかげで、思い切ったキャリア転換がスムーズにできたと思います。

進路選択に対してのメッセージ

世の中に星の数ほども進路がありますが、適切な進路アドバイスは中々人からはもらえません。なぜなら、誰もが他の進路の経験がほとんど無いからです。ですから、進路を絞り込んだら、同じ進路を選択した人を見つけ出してください。また、私のように、私と同じ進路の人が（恐らく）いない場合もあります。人からのアドバイスは大切ですが、常に、客観性を持って自分の意志でアドバイスの選択をするだけでなく、自身でたくさん考えてください。自分が心地よく楽しめると同時に、人を幸せにする進路選択をして欲しいと願っています。

◆プロフィール

赤ちゃんの頃から10歳までタイと日本を数年ごとに行き来する生活で、幼稚園から中学まで転校6回。その後は茨城県つくば市で成長。好きなスポーツは水泳と剣道。ラグビー強豪校の茗溪学園高等学校卒業 → 名古屋大学文学部考古学専攻 → アクセンチュアで経営コンサルタント → 夫の転勤先（米国）の近所の大学に留学 → フリーランスの経営コンサルタント → 筑波大学大学院システム情報工学研究科で修士（社会学）と博士（マネジメント）取得 → 日本大学生産工学部マネジメント工学科（現職）



人との出会いを大切に

小森谷友絵（日本大学生産工学部環境安全工学科 准教授）

仕事の内容とやりがい

学生中は、微生物を利用した有用産物の生産の研究を行っていました。現在は、微量血中タンパク濃度の測定を目的とした臨床検査薬の開発を行っています。両テーマとも、モノづくりを目的とした研究です。所属が工学部であるため最終目的は明確であり、また企業との共同研究もさせて頂き、研究の意義や有用性を感じながら研究を行っています。近い未来、超高齢化社会になるといわれていますが、生活の質の向上や健康増進を目指して未来を健康で活力あるものにするために必要な研究と思っています。

進路決定のきっかけ

高校において、生物の授業を通して生命の不思議について熱心に教えてくださる先生に出会い、また大学の様子や自分の体験を教えてください化学の先生に出会い、大学さらに大学院へ進学しました。大学では、微生物の能力に興味を持ち卒業論文・修士論文では、微生物を利用した有用産物の生産について研究を行いました。その後、自分の進路に関して、研究者としての仕事がしたいという希望と指導いただきました教授の力添えもあり、大学にて助手として採用していただきました。大学という場所での研究・仕事ということで、研究だけでなく、学生への対応ということなど様々な不安はありましたが、またとない機会を大切にしようと思い現在も大学研究者として働いています。

仕事と家庭／生活のバランス

毎日の生活のほとんどを大学での研究と仕事、そして通勤の時間に費やしています。通勤時間は片道2時間ちょっとと長いのですが、私にとっては考えごとをしたり、スケジュールの確認をしたり、音楽を聞いたり、本を読んだりする大切な時間です。お盆や年末年始は、長期の休暇をとることができるため旅行に出かけています。また、あまりストレスはたまる方ではありませんが、弓道や読書、たまにスキューバダイビングに行ったりして気分を切り替えることを心がけています。

進路選択に対してのメッセージ

私は、人との出会いによって興味あること仕事にしたいことが導かれ、そして今の職を得ることができました。そのときそのときの岐路において、自分の未来・生活・しなければならぬ事を考えて選択をしてきました。人によって進路選択における重要なポイントは異なると思いますが、反省はしても後悔はしないように自分で選択をして欲しいと思います。

◆プロフィール

佐野日本大学高等学校 → 日本大学・生産工学部・工業化学科 → 同大学大学院・工業化学専攻（博士前期課程）→ 日本大学生産工学部・応用分子化学科・副手 → 日本大学生産工学部・環境安全工学科・助手 → 現職。



大学教員

流れに身を任せてチャンスの女神の前髪を掴む！

三木久美子（日本大学生産工学部教養・基礎科学系 准教授）

仕事の内容とやりがい

“教育と研究” エフォートを半々にできればうれしいのですが、教育に偏っているのが現状です。私が属する教養・基礎科学系という組織は昔風といえば一般教育科目を教える集団で、対象学生のはほとんどは大学生になりたての1年生です。数学や物理は好きでも化学や生物を専門としない学生、理系に少し苦手意識を持つ学生など様々ですが、「工学の基礎としての化学や生物の重要性」を彼らにいかにか伝えられるか… それに心を砕きながら授業に臨んでいます。また、「受け身の生徒（高校生）を能動的な学生（大学生）へと精神的に変身させる」手助けをすることも、大切な仕事の一つです。研究テーマは「水の構造と物性について」 私たち人間にとってとても身近な物質“水”ですが、まだまだ未知の部分があるとても魅力的な対象です。

進路決定のきっかけ

小学校の担任の先生がとても素敵な先生で、小さい頃からの憧れの職業は小学校の先生でした。高校生の頃に祖父を癌で亡くしたのがきっかけで、医療に携わりたいと思うようになりました。医師か薬剤師か小学校教師か、さんざん悩んだあげく選んだのは薬剤師への道でした。卒業研究をしていた初秋、指導教授から生産工学部への就職のお話をいただきました。“研究のおもしろさ”に漠然とながら自覚め始めていた私は、これをすぐにお受けしました。小学校ではないものの教員になれ、しかも薬学で学んだことを活かして研究をしていく中で次の世代に何かを伝承してゆける… 私にとってはこれ以上望めないすばらしい進路となりました。

仕事と家庭／生活のバランス

結婚（＝仕事と家庭の両立）を考えた時期もありましたが、結局はシングル進行形です。全ての時間を自分のために使える気楽さ故に、30代の終わりには1年間の海外研究の機会にも恵まれました。帰国してからは一念発起して「平日は仕事、週末は大学院生」という生活もしました。学生指導も研究もほとんどの仕事は大学でしかできませんので、日々の生活は職場と家の往復のみで、睡眠時間以外は大学で過ごすようなライフスタイルです。こうして1年間働いた自分へのご褒美は、夏休みを利用しての海外旅行です。1週間から10日ほどですが、1カ国ずつ大好きなヨーロッパの街並みや文化に触れています。大学院に通い出してからなかなか時間がとれず、暫くの間のご褒美はおあずけ状態です（笑）

進路選択に対してのメッセージ

人には人生での岐路がいくつかあります。その時その時でしっかりとその分かれ道を見つめ、周りの方の声を傾けていたら、必ずと進むべき道が見えてくるような気がします。もちろん自分の運命を積極的に切り開いていくことも大切ですが、縁があり機が熟せば、必ず幸運の女神さまは微笑んでくださいます。その微笑み（チャンス）に気付いて、女神さまが通り過ぎる前に前髪を掴ませてもらえるのは、自然体で大きな流れに身を任せることのできる観察力と度胸を持ち合わせている人なのだと思います。

◆プロフィール

お茶の水女子大学附属高校 → 日本大学理工学部薬学科 → 日本大学生産工学部副手 → 現職 その間にデンマーク Roskilde 大学に1年間在籍（海外派遣研究員）、千葉大学大学院融合科学研究科博士後期課程単位取得満期退学 薬剤師。



自分をオープンにして、いろいろな経験・意見を受け容れ、仕事と向き合ってみよう!

小谷 幸 (日本大学生産工学部教養・基礎科学系 准教授)

仕事の内容とやりがい

「どうしても男性と女性が働きやすい職場になるのか」をテーマに研究を続けてきました。大学院では、当時頻発し始めたリストラやいじめといった労働問題の相談に乗りその解決をめざす個人加盟労働組合(ユニオン)の研究を行いました。大学院修了後は実務経験の必要性を感じて看護職の職能団体に勤務し、医療・看護政策提言・ロビー活動のほか、看護職が結婚・出産しても仕事と家庭生活を両立(ワーク・ライフ・バランス)できる職場に関する研究を行いました。現在は大学に勤務し、この2つの研究を引き続き行うとともに、「仕事の社会学」を教えるが学生が仕事と向き合うきっかけをつくることを目指しています。研究や教育によって、ものごとが少しでもよい方向に進むと感じられる時、とてもやりがいを感じます。

進路決定のきっかけ

私たちの行動や意識に大きく影響を及ぼす「社会」というものに何となく関心を持ち、大学受験の際に社会学科を専攻しました。母が専業主婦で、女性も経済的に自立した方がいいなと思ったできごとが何回もあり、また女子大での経験などから、次第に「ジェンダー」への関心を持つようになりました。また、大学3年の調査実習で「フィールドワーク」に参加したところ、現場のもつ魅力・威力にすっかりはまってしまう。「社会」における「ジェンダー」について、足を動かして「フィールドワーク」した結果をもとに突き詰めて考えてみようと思い、大学院に進むことにしました。

仕事と家庭/生活のバランス

夫とは、学会で知り合いました。互いの関心が近く、議論するととても楽しいです。現在は1歳の息子の両親として、仕事と家庭生活の両立に悪戦苦闘中です。基本的に朝食を夫が作り、夕食を私が作り、その他の家事も分担しています。掃除は自動掃除機にお願いするなど効率化を図っていますが、それでも嵐のように日々が過ぎ去っていきます。双方の両親や職場の理解・支えなくしては成り立たないな、と実感、感謝の毎日です。この経験が、きっと今後の研究・教育に生かされるはず! 「いやー、あの頃は大変だったね」と笑える日が来るはず! と今日も自分にハッパをかけて、取り組んでいます。

進路選択に対してのメッセージ

自分に向いていることを見つけるためには、「やりたいこと」のみにあまり強くこだわり過ぎないことも大事だと思います。私は前の職場である看護職の職能団体に働いていた時、それまでの調査研究とはかなり異なり、自分の調査した結果などをもとに政策提言文書を作成しロビー活動(議員に政策を提言)をする仕事もしましたが、政策が実現されることもあり、ものごとが少しよい方向に進むお手伝いできたとてもやりがいを感じました。調査研究だけをやっていたら絶対に分からなかったことでした。いろいろなことを経験してみると幅も広がりますし、その中から自分に向いていることが徐々にわかってくると思います。また、自分で経験しなくても、その仕事をしている人のナマの声をじっくり聞くというのもとても参考になると思います。

◆プロフィール

千葉県立葉園台高等学校 → 東京女子大学文理学部社会学科 → 東京女子大学大学院文学研究科修士課程 → 早稲田大学大学院人間科学研究科博士課程(博士(人間科学)) → 社団法人日本看護協会政策企画部 → 現職(第一子出産)。



キャリアコンサルタント

キャリアの後押しはコミュニケーション力

丸野綾子（株式会社アルノ 代表（人材育成コンサルティング会社））

仕事の内容とやりがい

小～大学生まで、好きで得意な理数科目を中心に学んできましたが、就職先を考える際、「学んできたことを活かす場」ではなく、「宣伝販促、サービス」の分野が目がいきました。時代がバブル期であり、今まで見えなかった、気付かなかった分野に興味を抱くようになったのです。結果、自動車会社の宣伝販促の仕事に就き、過酷かつ賑やかな仕事を経験して参りました。その際に、ビジネスの基礎力であるコミュニケーションを徹底的に学ぶことで、どのような仕事にも「コミュニケーション力が大事」という思いが強くなり、いつしか軸足がコミュニケーション力を中心にした「人材」育成に移っていきました。現在は、様々な業種・業界の方々のコミュニケーション強化のお手伝いをしています。コミュニケーションアップがその方の専門能力向上の後押しになり、より一層活躍なさっているお姿を拝見した時、お役に立った喜びを感じ、次へのやりがいに繋がっています。

進路決定のきっかけ

小学校の卒業文集に「将来なりたい姿」として、「宇宙飛行士」と書きました。とにかく算数が好きで、計算をしたり、問題を解いたりすることで答えが導き出されることに夢になっていました。加えて、理科の実験もワクワクする時間になり、更に、宇宙という想像のつかない世界への興味が広がっていました。おのずと中学でも数学や化学が得意科目となり、高校では理系クラス、そしてそのまま迷わず理系大学に進学。「宇宙飛行士」にはなれませんでした。勉強したいことに熱中出来た学生時代でした。

仕事と家庭／生活のバランス

現在の仕事はカレンダーや就業時間に関係なく、何う先のご都合に合わせて私のスケジュールが決まっています。朝8時からスタートの時もあれば、夕方6時からということもあります。そして、殆ど毎日、仕事先が異なりますので、時間管理と体調管理は必須です。更に、実際の研修やコンサルティングの時間以外にテキストや資料、企画書、報告書等の作成がありますので、自宅に戻ってもパソコンに向かっていることが多く、なかなかON/OFFの切り替えが難しいのが悩みの種です。出張もあり、「子供の育成」に関しては、多くの人の手を借りて乗り切っているところです。

進路選択に対してのメッセージ

好きなこと・得意なこと・興味のあることは原動力になります。ですから、まず自分は何が好きで、何が得意で、何に興味があるかを知り、自分の強み・弱みも把握し、環境と対話しながら、「なりたい姿」を明確にしてほしいです。そして、その「なりたい姿」に到達する為のアクションプランを具体的に設定し、行動することをお勧めします。加えて、私の経験から…多くの人に「なりたい姿」を話すこと！きっと、どなたかが大きなヒントやチャンスを下さいます。是非、ハッピーキャリアのスタートを！

◆プロフィール



日本大学豊山女子高等学校 → 日本大学生産工学部工業化学科（現：応用分子化学科）→ 日産自動車（株）ミスフェアレディとして入社（様々な販売促進・宣伝活動、VIP対応、CS接客対応、イベント演出を経験し、その後、後輩指導、人材選考および育成などに従事）→ 経験を活かし、コミュニケーション総合コンサルタントとして、企業における人材の育成に携わり現在に至る。

陽気さは七難かくす。いつも明るく元気印で！

松田清美（日本大学生産工学部環境安全工学科 非常勤講師）

仕事の内容とやりがい

大学卒業と同時に日大に就職。理工学部一般教育で助手、助手として1年生相手に化学実験の指導を「習志野校舎（現在の船橋校舎）」で、駿河台および津田沼校舎で研究活動をスタートしました。その後、生産工学部所属となり、日大紛争、学部間の確執で実羽校舎に移りました。21年後、専任講師として講義をできるようになり、平成4年には、学部の組織再編構想により、工業化学科（現在の応用分子化学科）に移籍し、卒業研究生の指導が本格的にできるようになりました。平成6年11月に学位取得、平成10年4月教授となり大学院の学生の指導もできるようになりました。助手時代に子育てが終わり、工業化学科に移籍後から本格的に専門分野（機能性高分子化学）で卒研指導、修論指導をできるようになっていることは、職場の皆さんの暖かい援助と親にももらった体力（170cmの身長と体重は??）・気力の御陰と感謝しています。

進路決定のきっかけ

①小学校2年の時、疎開先の愛知県海部郡弥富町から、東京に戻れたことです。公立中学、女子系都立高校、女子大学に学びました。最も難関だった？理学部化学科へ進学。②卒業後の就職先として、大学に就職してもう少し勉強したいと考えたこと（大学院への進学は経済的に全く論外）。私立の3候補から、結局“天下の日大”を選択。日大は男女の給与体系に差別はありませんでした。③長期間、一般教育で1年生の実験指導。縁があって？専門学科の高分子化学系の研究室で共同研究ができるようになり、文部省の方針を受けて学部で計画された一般教育と専門の統合を機に、工業化学科への移籍ができたこと。3回の転職があって、現在があります。

仕事と家庭／生活のバランス

44歳で“おばあちゃん”になった母の献身的な協力で子育てをできました。夜中にレポートをみたり、学位論文作成中は、何度が研究室の床にクッションを並べて寝たりしましたが、元気印で頑張ってきました。子供が小学校の時には、PTA活動もやらされ、その延長で始めたママさんバレーでは、全国大会にも出場しました。今は、あんなに元気だった母が認知症になり、介護施設に預かってもらいながら週末は一緒に過ごしていましたが、H25.2.20 満90歳を前に他界致しました。老衰による大往生でした。

進路選択に対してのメッセージ

私の時代は、社会的な教育援助が大変不十分でした。国立でなければ大学進学はできなかったし、安月給でもサラリーマン家庭では奨学金ももらえませんでした。皆さんの時代は、本人の意思さえしっかりしていれば、種々の道に進めると思います。強い意志を持って、自分の望む道を切り開いていってください。何かできることがあれば応援します。

◆プロフィール

都立三田高校 → お茶の水女子大学理学部化学科 → 日本大学 S41 助手、S44 助手、S62 専任講師、H4 工業化学科移籍、H6 助教授、H10 教授。H6.11 博士（工学）；日本大学。S41.12 結婚、S44.8 長女、S48.6 長男出産。定年退職。



大学教員

ほんとうに好きなことに全力投球するだけ

草間國子（日本大学薬学部 教授）

仕事の内容とやりがい

私立大学薬学科の教員として、大学院卒業以来教育・研究に携わってきました。授業や実習の合間に学生さんと一緒にやってきたというのが正しく、総じて研究というより教育に分類されるものです。中枢神経の薬理学から出発し、生化学、細胞生物学と広がる一方の生命科学の大海原を必死に漕いできたという感じです。人生に一つくらい自分の見つけた薬を残したいという事で、近年は基礎研究をもとにして、天然物由来の運動神経疾患の治療薬の探求にテーマを絞って体力勝負でやっています。

進路決定のきっかけ

不本意入学だったので、不真面目学生でした。3年のある午後、有機合成の授業でモルヒネの化学合成の話に触れ、自然がたやすく作る化合物を50年かけて合成した学問の世界を知りました。そこから猛勉強し大学院に入りました。人生の出会いではあったのですが、考えてみると小さい時から家（薬局）の調剤室で背伸びして見ていた薬瓶や天秤、両親の調剤の手伝いが私の原点だったのです。モノと生体の間に位置をとり、クスリを治療薬としても毒物としても見ることができるのが薬学です。活動形態が変わってもこれは変わりません。

仕事と家庭／生活のバランス

バランスは非常に悪いです。両立は簡単ではありませんでした。定年近いのですが、仕事も家事も介護もオーバーワークで、いまだにゆったりと時間を過ごすことができません。比率的には仕事85、介護10、残り5くらいです。一人娘（会社員で1児の母）の子育ては義理の母に。両親の介護は妹に本当に迷惑をかけてきました。夫も私の帰りを待つのに慣れきっています。お詫びと感謝あるのみです。これが私の人生と開き直ってはおりますが・・・。

進路選択に対するメッセージ

高校を卒業する時点では、中々自分の将来の道筋が見えず漠然とした気持ちで進学する方が大半だろうと思います。周りの影響や親の強い薦めなどもあるでしょう。ですから、大学に入ったらそこで何かを探し、見つけることです。これは生半可な姿勢ではダメ。最初からご馳走が整えられて並んでいる訳はありませんよ。本当に好きだといえる位まで自分も葛藤し、努力し、自分で掴むものです。掴んだらまっしぐらに進んで下さい。必ずその先にあなたの花園があります。

◆プロフィール

私立女子中学・高校 → 日本大学薬学部卒業 → 千葉大学大学院薬学研究所修士課程修了 → 日本大学に教員として採用され現在に至る。1991博士（薬学）。1997-8ジョーンズホプキンス大学医学部神経内科留学。趣味は読書（現在は社会科学や精神医学など）、クラシック音楽。



すべての出会いは運命の出会い

村山琮明（1979理工学部歴薬学科卒業 日本大学薬学部病原微生物学研究室 教授）

仕事の内容とやりがい

専門は微生物、主に真菌、細菌です。大学時代に面白い、楽しいと思ったまま、今日まで来てしまったというのが本音です。もちろん、仕事として長く続けるにはそれなりに辛いこともありました。そのようなときは身近にいらした沢山の方が助けてくださいました。いつも出会いありきです。大学院の恩師が、「私は自分が教育を受けた分、社会にお返しをしようと思っている。」と、おっしゃっていた言葉が忘れられず、社会に対して恩がある以上、少々のはは我慢しなければと思っています。

進路決定のきっかけ

幼い頃から病気がちで、高校まであまり勉強をすることができなかった分、大学に入ってから急に知識欲が湧きました。受ける講義のほとんど全てが面白いと感じたのです。また、実験などにおいても日本大学薬物学研究室の先生方や先輩の方が、熱心に面倒をみてくださいました。先輩（現教授）に福田英臣先生の薬理学の本をいただいて、心臓の受容体の話を初めて聞いたときの感動は忘れられません。研究というものがこんなに面白いのなら、更に続けようと思い、大学院進学を決めました。

仕事と家庭／生活のバランス

結婚は大学院時代で、娘が一人おります。勉強も読書も、睡眠を削って時間を確保しました。子育ても、お金で買える時間はお金で買う、例えば外出したときにはタクシーで早く帰るなど、多少の無理をしながらも時間をつくったものです。娘も職業人になったところをみると、親の背中をしっかりと観て育ったようです。バランスが取れていたかどうかわかりません。無理に取る必要もないと思っています。何が自分にとって大事かを考えれば、自ずと捨てるものが見えてくるのではないのでしょうか。

進路選択に対してのメッセージ

日本大学で過ごした卒業研究時代は貴重な1年間でした。先生方に教えていただいた研究に対する考え方、姿勢、手法、段取り、そして共に試行錯誤を繰り返した友人の存在が、その後どれだけ役に立ったかわかりません。基本を身に付けさせていただいたと感謝しております。“すべての出会いは運命の出会い”、沢山の方々に本当に多くのことをご教示いただきました。日本大学にはそのような学生時代を過ごせる最高の環境が備わっていることをお伝えできれば嬉しく思います。

◆プロフィール

日本大学薬学部 → 千葉大学大学院総合薬品科学専攻 → 東京大学附置医科学研究所・教務補佐員 → 明治薬科大学・助手 → 帝京大学医学部・助手・講師 → 北里大学大学院感染制御科学府・講師 → 現職



研究者・発がんシステム研究分野 ユニット長

やりたい事に会えるタイミングは人それぞれ。あらゆる可能性にチャレンジしてみよう

戸塚ゆ加里（国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所・発がん・予防研究分野 ユニット長）

仕事の内容とやりがい

現在取り組んでいる研究は「発がん要因の解明」です。我が国は2人に1人ががんに罹り、3人に1人が死亡するがん大国なので、がんの治療が大切であることは間違いありません。しかし、発がん要因の約60%は環境因子であることも指摘されており、これら発がん要因から身を守り、がんにならないようにする「がん予防」という概念は、がん罹患率を激減させるための有効な方法です。がんの要因解明とは、地道な基礎研究の繰り返しで、長い時間が掛かり、骨の折れる仕事ですが、多くの人をがんから守ることに貢献できると云う点で、とてもやりがいを感じています。

進路決定のきっかけ

高校の時、国語と社会よりも数学と理科の成績の方が良かったという理由で理系に進学しました。また、犬を飼っていたこともあり、獣医になろうと努力しましたが進学に失敗し、そのままの成績で入れる薬学部に入りました。そもそも、薬剤師になりたいと薬学部に入った訳ではないので、何の目標もさだまらずに遊んでばかりの大学生活でした。でも実験は楽しかったので、大学院に進学し、修士課程修了後も実験を続ける事にこだわって国立がんセンターの実験補助員として勤務し、発がんのメカニズムに関する研究に携わる事になりました。その後、腰を据えてがんの要因解明に取り組もうと決意したのは、がんセンターで働き始めてから10年くらい経った頃でした。母のがんに罹り、入院先で色々ながん患者さんと出会った事がきっかけです。

仕事と家庭/生活のバランス

女性が仕事をする事に理解のある夫の協力のおかげで、今現在の仕事と家庭のバランスは7（仕事）：3（家庭）くらいです。でも、重要なプロジェクトに参画しているので、今は仕方ないと思っています。勝手な解釈ですが、ワーク・ライフ・バランスは、1日単位でなく数年単位で考えてもいいのかなと。ただ、そんな私でも決めているが事2つあります。それは、①仕事は自宅に持ち帰らない ②日曜日は絶対に休む です。どんなに目一杯仕事しても、毎日かならずリセットし、週末には汗をかく気分転換をすることが、楽しく仕事を続け、かつ健全な生活を送る上で重要だと考えます。私は毎週末に趣味のテニスでストレスを解消しています。

進路選択に対してのメッセージ

なかなか目指すものに会えなくても、焦る必要は無いと思います。逆に、早いうちから目標に向かって突き進んでいる人は、時には周りを見回して興味を引かれるものがあればちょっとかじってみることをお勧めします。一度設定した目標でも、長い人生の中では変更も可能だと思うからです。また、「目標=あこがれの仕事」と考える人も多いと思いますが、必ずしもそうではないかもしれません。「目標の自分」と「今の自分」があまりにもかけ離れ過ぎると目標達成は難しいものになります。「なりたい自分」ではなく、もう少し手前の「なれる自分」に目標を設定するのでも「あり」だと思っています。これらを総じて云うと、進路選択はあまりガチガチに決めてしまうのではなく、多少ゆるさを残しておく方がいいように思います。

◆プロフィール

日大豊山女子高校 → 日大理工学部薬学科 → 明治薬科大学大学院薬学研究科修士課程 → 国立がんセンター研究所・発がん研究部・流動研究員<平成5年4月～；平成11年明治薬科大学において薬学博士号取得> → 国立がんセンター研究所・がん予防基礎研究プロジェクト・研究員 → 国立がんセンター研究所・同プロジェクト・主任研究員 → 国立がんセンター研究所・同プロジェクト・室長 → 国立がん研究センター研究所・発がんシステム研究分野・ユニット長 → 国立がん研究センター研究所・発がん・予防研究分野・ユニット長 → 現職



自立し、スマートに生きよう！！

福田恵子（日本医科大学千葉北総病院薬剤部顧問（前薬剤部長））

仕事の内容とやりがい

大病院勤務薬剤師として、勤務当初は特段気負うことなく調剤業務を行っていましたが、時代の流れと共に業務が大きく変化してきた職種です。院内調剤から院外処方せん発行、調剤主体から服薬指導、病棟での薬学的関与・常駐化、薬生教育の関わり等求められ、更に新病院立ち上げでは多くのことを経験させていただきました。約40年の勤務の中で、後半十数年間は管理者として、院内外の職種を超えた多くの方々の支援・協力の下、職務を全う出来たと感謝の気持ちでいっぱいです。

進路決定のきっかけ

今の時代は『なりたい職業を定め、それに向って進路を決めなさい』という教育ですが、私の場合は消去法から始まりました。小6の時『長文が苦手なようです。』と通信簿の一言で、文系ではないな？また、一言でその人の人生に影響がでる教育者にはならない。と強烈に思ったのが進路に関しての記憶です。更に中1の時、母から薬剤師の存在を知らされたことで、大学受験に繋がりました。薬学部卒業前に当時は任意であった2週間実習でお世話になった大病院に縁があり入職でき、今があります。

仕事と家庭／生活のバランス

地方の商家に育ったため、小さいころはサラリーマン家庭の専業主婦にあこがれておりました。結婚し子供に恵まれた時は、病院勤務薬剤師として“面白み”を感じ始めたころなので大いに悩みました。業務上休日勤務・当直業務があるため、通常の保育施設利用では対応が困難となるためです。家を持ち、主人の両親と同居することで解決策とし仕事継続を決断しました。たまに愚痴を言える友人関係を多方面に持ちつつ、子供の行事は全て参加を基本とし、家族の理解・協力があつたからこそ継続できたと思います。

進路選択に対してのメッセージ

自己決定と解決能力
現代社会は情報があふれ決定に至るまでその不足はないように思われます。しかし万全の態勢で決めたにもかかわらず、不測の事態は起きるもの。そのような時、他人が決めたことではなく自分自身が決めたからこそ、その責任を持ち、悩み解決する。人は悩んでこそ成長するものです。時には解決策が見当たらない、また、時間がかかることもあります。でも“人のせい”にすることなく、コミュニケーションを活用し参考にして自身で解決していきましょう！

◆プロフィール

福島県立安積女子高校から日本大学理工学部薬学科へ、卒業後は日本医科大学付属病院薬剤部に入職、1984年第1子出産、1993年第2子出産半年後に現日本医科大学千葉北総病院立ち上げ準備室へ異動、2005年から薬剤部長、2017年3月定年退職現在に至る。



大学教員

迷ったら面白そうな方へ進んでみよう

中島理恵（日本大学薬学部薬事管理理学研究室 助教）

仕事の内容とやりがい

大学での仕事には、研究と教育の2つの側面がありますが、私はこれに加えて薬剤師という医療従事者としての面も忘れないようにしています。というのは、私が行っている研究は薬剤師がより社会に役立つためのものですし、大学での教育も薬剤師を育てるという目的が強いからです。社会と薬学という大きなテーマを扱うので、研究で関わる方も行政、企業、病院や薬局のみならず患者さんや地域住民の方と幅広く、大学では将来有望な学生さんと日々触れ合うことができるので毎日が刺激的です。

進路決定のきっかけ

医療に関わる仕事には物心着いた時から憧れていましたが、一方で研究者や海外に関わる仕事にも興味が湧いてきてしまい、高校時代は色々迷いましたが最終的に落ち着いたのが薬学部です。私は薬学部を卒業した後、病院での仕事を経験して、今度は途上国の医薬品問題に取り組むため、大学院に進み国際保健を専攻しました。大学院では世界中から来た留学生と共に共通の目的である人々の健康について学びました。カルチャーショックの連続でしたが、留学生との時間は本当に貴重な体験でした。

仕事と家庭／生活のバランス

好きなことを仕事にしているので、ワーク・ライフについてはきっちり分かれているわけではないかもしれませんが……。国内外問わず出張の多いとても幸運な仕事なので（私は旅行が大好きです）、出張先で美味しいものを食べたり、新しい出会いを楽しんだりしています。また、旅先での出会いをもっと楽しむために英語やスペイン語といった語学は昔から趣味で習っています。最近は中国語も始めました。

進路選択に対するメッセージ

若いときから「絶対この道だ！」と決められる人は少ないと思います。私も30歳を過ぎるまで全く先の見えないキャリアでしたが、常に興味のある方向（面白そうな方）を選択し続ければ最終的には自分の好きな仕事をしているのではないのでしょうか？ また、一見全く違う分野の体験も後になってみれば役立つことも多々あるので、チャンスがあれば色々なことを経験してみると良いと思います。そして、迷ったときは是非面白そうな方へ！



◆プロフィール

高校卒業 → 日本大学薬学部生物薬学科卒業 → 病院薬剤師 → 東京医科歯科大学大学院博士前期課程国際保健医療協力学専攻 → 東京医科歯科大学大学院博士前期課程国際保健医療協力学専攻（内2年間は日本学術振興会特別研究員として国際医療に従事） → 薬局薬剤師 → 現職

一度やってみるのもありじゃない？

芝野ゆう（東京都健康安全研究センター広域監視部医療機器監視課医療機器第一区担当 主任）

仕事の内容とやりがい

現在、東京都薬事監視員として働いています。現在の仕事内容は、医療機器製造販売業者（いわゆる医療機器メーカー）等への調査・指導を行っています。東京都の薬事監視員として、危険ドラッグ対策、健康食品等の広告相談、医薬品等製造販売業者等への調査・指導を行っています。調査等で伺った先で、様々な分野のプロと話をする機会があります。話の流れの中でその業界での行政としての位置づけや役割を見出すことができたときに仕事のやりがいを感じます。

進路決定のきっかけ

父が行政薬剤師として働いており、小学生の頃に父の職場に行く機会がありました。実際には研究職に近いところがあったので、単純にこの仕事面白そうって思ったのがきっかけです。大学在学中は研究職等への就職も考えましたが、結局は行政薬剤師を選びました。都庁に入った時には検査・研究部門に配属されませんでした。薬事監視員として仕事をやっていくうちに様々な職種の方と接することで、幅広い知識を得る機会が増え、非常に興味深い仕事だなと感じて現在の仕事を続けていくこととなりました。

仕事と家庭／生活のバランス

知事がライフワークバランスを推奨しています。それを実践して、仕事は効率よく終わらせ、なるべく定時で上がるようにしています。現在、両親と離れて一人暮らしをしているので、仕事が終わった後や休日は自分の時間を自由に使えます。小さい頃から楽器演奏が好きだったので、週末には大人の音楽教室へ通ってサクソフーンを演奏したり、社会人サークルに入ってマンドリンを演奏しています。また、仕事の同僚や趣味等の友人と食事をして、仕事のことを忘れ、ストレスや疲れを溜めないようにしています。

進路選択に対してのメッセージ

本来であればやりたいことを仕事にするのが一番の理想ですが、何をやりたいか分からない、進路の選択に悩んでしまっても、興味があるのであれば、一度やってみてみる価値はあると思います。もし自分に合っていればそのまま続ければ良いですし、合わなければ気力・体力は必要になりますが、考え直すのも一つの手ではあると思います。人生の中で様々な選択をしなければいけない中で、たくさん悩んでたくさん経験を積んで、自分のモノにしていってください。

◆プロフィール

私立女子中学・高校 → 日本大学薬学部卒業 → 日本大学大学院薬学研究科博士前期課程修了 → 東京都入都。2008年から社会人大学院生として東京都働きながら日本大学大学院薬学研究科博士後期課程に通い、修了しました。趣味は楽器演奏、音楽鑑賞。

